

おーぷん

社会福祉法人さざんか会法人広報誌『おーぷん第92号 2022 冬』

発行：さざんか会法人本部/船橋市行田 2-8-1/☎047-404-1135

編集：おーぷん編集委員会/けいよう/船橋市二和西 5-10-1/☎047-411-8177

「新年、明けましておめでとう
ございます」。
3年目を迎えてしまう「コロナ禍」の中では、ご挨拶のトーンも何となく下降気味です。今年も北総育成園の入所者の皆様には帰省が叶わず、そのことを思うと心が痛みます。毎年、せめてお正月くらいは、と思うのですが。

利用者各位が感染することなく、施設で決してクラスター発生が無いよう、今年も最大努めて行くばかりです。ご利用者及びご家族各位には何かと不便をお掛け致しますが、どうぞご寛容の程をお願い申し上げます。
さて、昨年は「さざんか会」が誕生して50年という節目の年でした。そして新年から51年目

の歩みを始めました。人に例えるなら、中年真っ盛りといったところか。人生50年の時代なら、そろそろ終活に入る頃でしょうが、現実はそのうちありません。「働き盛り」であり、まだまだこれからといえる年齢でしょうか。若い頃から培った実績が貯えられ、仕事のノウハウも熟知、難題も右から左へと。正に頼ら

社会福祉法人さざんか会 理事長 宮代 隆治

『おめでとうございます』
と『初夢』

おーぷん92号目次

P1「おめでとうございます」と
「初夢」
さざんか会 理事長 宮代隆治

P3 北総の里だより
・北総育成園
・笹川なすな工房

P7 各事業所冬だより
・のまる
・カメラアハウス
・けいよう
・ゆたか福祉苑
・グループホーム
・とらのこキッズ
・さざんかキッズ



れ、信頼される存在。さざんか会も、是非こうでありたいものです。



私たちが取り組まなければならぬ課題も見えています。ご家族やご利用者の高齢化、伴う医療的ケアや生活全般への配慮、利用者各位の「暮らし」をそれらに対応した、可能な限り快適なものとして実現して行かなければなりません。

児童発達支援センターの役割、機能の強化も求められています。両キッズの存在が、船橋市において益々その価値の高まりが求められそうです。

また、障がいのある人の「権利擁護」は近年、障害福祉の現場のみならず、社会諸相において法の整備はじめその実現が図られて来ました。また、そこでは

「意思決定支援」が約束されなければなりません。全ての事象の根底に、本人の「意思」が確認され、そこから始まるものが原則となります。例えば「右か左か、上か下か」、どちらを選ぶかは、本人が決めることです。障がいの故に特別な枠をはめられ、時間や空間そして価値観などを強制されてはならないのです。「障害者はこうあるべき」は、とんでもないことです。支援する側は、本人が主体性をもって自身の意思を発現できるように、そんな支援を実行しなければなりません。



50周年記念誌の副題は「力を合わせて」としました。独りの力は知れたもの、でも皆が力を合わせればずっとずっと強力になります。北総育成園が存亡の危機にあったとき、身をもってこの事を実感しました。困難な課

題も「力を合わせて」臨めば、きっと道は開けるでしょう。51年目を歩み始め、そんなことを考えています。

さて、ここで話は急展開。皆さんは「初夢」をご覧になりましたか。「一富士二鷹三なすび」は初夢の代名詞です。「コロナ禍」にあるだけに、せめてめでたい初夢で癒されたいものです。

我が家で一番の早起きは私になります。まんざら年のせいだけでなく、子どもの頃からそうでした。早起きの私は、先ず郵便受の朝刊を取りに行きます。その朝は朝刊一面を見て大興奮、小躍りして喜びました。大きな文字で「社会保障費今後5年で倍増へ」とあったのです。例えば、令和4年度の障害福祉サービス関係費は1兆4210億円。これが将来2兆8400億円程になるのです。

「やったあ、やっとこんな時代が来た！」これで障害福祉サービスの報酬も倍増、もう3Kなどとは言わせない。他の産業従事者と比べ、大きく差を付けられていた賃金問題もこれで解消。障がい福祉現場に人が集まるでしょうし、何より若者がこぞって来てくれるようになるのでは。

予算が倍増すれば、あれもできる、これもできる。心躍らせ、満面の笑みを浮かべていました、が。

ここで、目が覚めました、なんだ「夢」か。喜びはしゃぎ過ぎて少々疲れを覚えた体を起こし、何時ものように郵便受から朝刊を手に。そこで目に飛び込んで来たのが大きな文字で「防衛費今後5年で倍増へ」。今度は本当、頬をつねる必要もありません、起きていますから。いきなり冷や水を浴びせられたようで、悪寒に震え息消沈してしまいました。



「うたかた泡沫の夢」という言葉があります。水に浮かぶ泡、はかなく消えやすいものの例え、とのこと。夢と現実、軽く頭痛を覚えながら私の新年は始まりました。



北総の里だより

北総育成園

『虐待防止権利擁護研修』

『そして新年を迎えて』

支援課長 高木 恭一

当園では従来から「虐待防止権利擁護マニュアル」に基づき、年2回の職員行動チェックリストや職員研修等を通してより良い支援提供に取り組んでまいりました。そして、令和4年度からの法改正に合わせ「虐待防止権利擁護委員会」を立ち上げ、今年度は3回（7月・11月・12月）園内研修を実施しました。

7月の第1回目では「呼称と言葉遣い」をテーマに話し合い、「入職時は、さん付けが出来ていたが、もう少し深く関わりたい

と思った時に、さん付けでなくなるがあった」「自分の心をオープンにしたい気持ちから『ちゃん』や『くん』付けが増えてしまった」「相手に通りやすい呼び方をしてしまう」等の発言がありました。それに対してベテラン職員の一人からの確かな指摘がありました。それは「自己都合で親しい気持ちになってくだけた呼称になってしまふ。自分が見切った気持ちになってしまふ。でも利用者はそう呼ばれた」と思っていない。親御さんの



前や外で出来ない声掛けはしてはいけない」。その他にもたくさん率直な意見が出て有意義な研修会になったと思います。

続いて11月、12月の2・3回目の研修の実施にあたっては、全職員にどんなことを話し合いたいかなンケートを取り、その結果は概ね3つに分類出来るものでした。

- ①は言葉掛けや呼称に関する事。「マイナスな言葉掛けが気になる。プラスの言葉掛けが出来ないか」「〇〇しないと××ないよ」というような交換条件の声掛けが気になる」「ユーモアと中傷が曖昧になっていないか」等々。
- ②は支援の方法、不適切な支援について。「利用者ペースではなく職員ペースで行なってしまう」「夜間の排泄の失敗を防ぐためにこまめにトイレ誘導やパット交換をすることは、利用者の睡眠を妨げるという意味では不適切な支援なのか」「自分で出来る事まで介助してしまうのは良くないのでは」等々。
- ③はその他として「感染対策として移動や行動の制限をすること。陽性者の部屋を施設することとは虐待になるのか」「職員も利用者には危害をうけることがある。どう守ればいいのか」「爪切り、トイレなどを嫌がる利用者に対

し、安全・健康の為に望まない支援をすることは不適切か」等々。このアンケート結果を参加者に配布して討議に入りました。

言葉の乱れについては気持ちの余裕がなかったり、慣れだったりそれぞれ理由があり、もっときちんとしていこうという共通認識は皆が持っていました。

それよりも多くの人が悩んでいたのは支援の方法でした。利用者とかかわる際、本人が嫌がる事を本人の為と思ってするのは虐待なのか、逆にやらないことがネグレクトで虐待なのか。

また、利用者とのコミュニケーションを円滑にし、笑顔にするためにユーモアは有効ですが、一歩間違うとからかいになる恐れがあります。職員はホテルマンのように丁寧さと誠実さでお客様（利用者）と接するべきでユーモアはそれ程重要ではないのか、それとも家族や友人のようにユーモアも交え本音で言い合える関係を目指すべきなのか。

統一見解が出たわけではないですが、話し合う中で職員の意識がおおむね同じような（バランスがとれた）あたりに収斂され、全員がある程度の納得感を

得られたと感じました。こうして疑問をぶつけあうことが、支援に際しての悩みの軽減につながるのだと思います。今後、前向きに悩みつつ風通しの良い職場風土を大切に、虐待防止権利擁護委員会を実のなる物として継続していきたいと思っています。

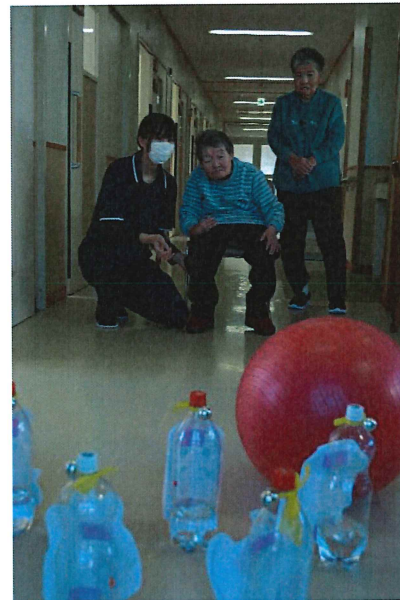
そして迎えた2023年元旦の朝。利用者と共に初日の出を見ました。美しく荘厳な瞬間を皆が息をのんで見つめていました。



2023年元旦 初日の出



地元諏訪神社に初詣



館内では福笑いやボウリングのゲームを楽しみました



北総育成園ホームページでは、ブログを再開しました。月2回ほど更新していきます。どうぞご覧いただければ幸いです。



笹川なずな工房

『Enjoy!!』

コロナ禍での年末年始

グループホーム野の花 支援員 野口光子

未だ収まらないコロナ感染、そんな中でも時は止まらず日々進んでいきます。2019年12月初旬に中国武漢市で1例目のコロナ感染者が報告されてから3年が経ちました。マスクをした生活、密を避けての食事、施設行事も行えず、形態を変えて今できる事を!!と試行錯誤しながら現在を迎えています。

笹川なずな工房は通所施設の為、日中は作業を頑張り利用者さんの多くは自宅に帰り家族との楽しい時間を過ごしています。家族団らん、買い物、習い事、外食、映画鑑賞等々Withコロナの生活を送り、それぞれがリフレッシュやストレス発散をしている事と思います。コロナ前は夏には屋外にてビアガーデン、年末には施設内で忘年会を開催し利

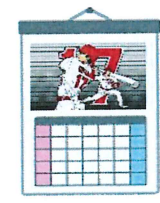
用者さんと料理を作り、数種類の鍋やオードブル盛り合わせ、お酒やカラオケ、ゲームと日頃の労を楽しいひと時を共有してきました。しかし今は密にならないように食事の場所を1ヶ所から4ヶ所にし、休憩中も決められた場所を過ごすようになりまし。そして多くの行事は取り止めになり少し形を変えて特別弁当やスペシャルデザート、屋外での縁日や散策、ニアピソングルフやフリスビーと新たな試みを導入し、感染予防しながらお楽しみ会を行ってきました。隣接するグループホーム野の花では、この3年間外泊は行えていません。外出は必要最低限となっています。1人1人を守りコロナに感染しないよう徹底した予防を行ってきました。

なずな工房の利用者さんの話を耳にし、野の花の利用者さんもお外食したい!!映画に行きたい!!自分も〇〇が欲しい!!と皆さんと同じようにやりたいことが沢山ある事と思います。しかし、もしもグループホーム内で感染者が出てしまったら?と警戒してきました。



利用者さんに我慢させることは、支援するこちら側のエゴかもしれません。このような御時世でも何か出来ないのか?今だからこそ出来る事はなんだろうか?と毎月行われる世話人会議で意見交換し話し合いを行ってきました。昨年は準備が遅れてしまいましたが、新しい新年を迎えてから希望するカレンダーの購入となっていました。小さな事かもしれませんが利用者さんにとっては楽しみにしている事、今年は早めにかタログを見ながら、好みの

カレンダーを選びました。Kさんの選んだカレンダーはこちらの想像とは違い、「大谷選手」新たな一面に驚かされました。



大谷選手って格好良いよね

12月25日はブッシュドノエルのケーキでクリスマス会、保護者会からのプレゼントに笑顔がこぼれました。12月30日から1月4日までの正月休みは「食べる事が大好き!!」皆さんの為に、事前に近隣の店舗で情報を集め、サプライズの計画を立ててきました。手作り唐揚げ、大みそかの年越しそば。元旦はお雑煮の朝食と昼食には皆大好き!!マクドナルドのハンバーガー。夕食は2種類のご飯と沢山の料理が入った特別豪華弁当。1月2日は羽生施設長特製スパシャルお好み焼、1月3日は小僧寿しの生寿司と日頃食べる事が出来ない献立を取り入れ、毎日「野の花オリジナル」の正月休みを

感じて頂ける内容としました。世話人さんも利用者さんの為に、とても協力的で正月休みも勤務に入って頂けて、より暖かな家庭的な年末年始を過ごす事が出来たと思います。

寒さが厳しい中ですが、元旦には日中気温が温かくなる時間に地元の神社までウォーキングしての初詣に行ってきました。密にならないよう参拝者の人出を見ながら1年の祈願をしました。また町内には県民の森があり広大な敷地には冬季に渡ってくる沢山の白鳥が集まる池があります。しっかりと防寒して、今しか出来ない白鳥の観察や餌をあげる体験が出来ました。一面芝生が敷き詰められた広場でのバランスボールを使用したサッカーを楽しみ皆で存分に体を動かしました。

自宅で家族と過ごす事以上に幸せな事はないと思います。野の花の皆さんと一緒に過ごす休みも「おもしろかったな」と感じて頂けたら大成功です!!利用者さんの表情に答えがあります。正月休みが終わり、通所した時に沢山の笑顔の中に自慢し



て話をしている野の花メンバーの表情が印象的でした。

令和5年 初日の出を浴びて



羽生施設長特製 スペシャル
ジャンボお好み焼き



みんなで初詣へ
「良い年でありますように」

Merry Christmas!



の ま る

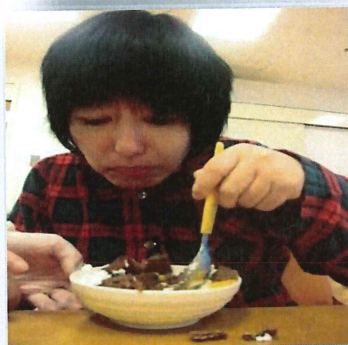
昨年は新型コロナウイルスの影響で活動が自粛になり、しばらく室内での生活になりましたが、体調を崩す事なく、無事に新年を迎える事ができました。

12月25日の日曜日に毎年恒例のクリスマス会が開催されましたので、紹介したいと思います。

秋のイベントと同様に、感染症対策に努めながら、縮小されたイベントとなりました。クリスマス之歌が聴こえ、赤や緑のクリスマスの装飾に囲まれ、とても良い時間になりました。

そして、皆さんが楽しみにされている昼食はフライドチキンやグラタン等クリスマスメニューが並び満足した笑顔が沢山あり、喜んだ姿がみられました。今後も利用者さんの楽しみが増える様に試行錯誤していきます。

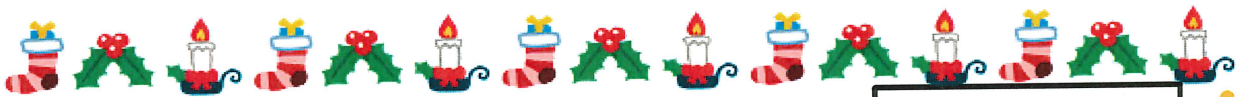
寒い日が毎日続いています。体調管理に気をつけて冬を乗り越え、春を待ちたいと思います。



カメラリアハウス

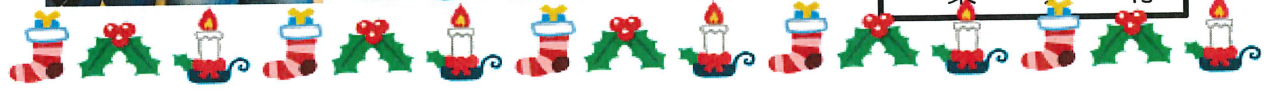


12月にクリスマス会や忘年会をグループで行いました！
 コロナ前のように盛大には行えませんが、各グループ工夫を
 しながらの楽しいイベントとなりました😊
 みなさん、おいしい料理を食べ年末の行事を楽しまれてい
 ました。



けいよう

12月23日に食堂にて、班ごとにクリスマス会を行
 いました。
 クリスマスの装飾が施された食堂でシユースとケ
 ーキを召し上がりました。
 会の終わりににはプレゼントもあり、皆さんとても楽
 しまれていました。



ゆたか福祉苑



昨年もお世話になりありがとうございました。本年もどうぞよろしくお願い致します。

ゆたか福祉苑ではコロナへの警戒をしながら、大規模な行事を控え、各班にてお疲れ様会やクリスマス会を行いました。

どの班の利用者様の顔もキラキラと目を輝かされ

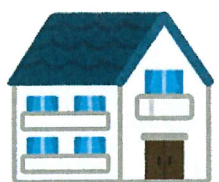
楽しそうな様子を見せて頂くことができ、職員も

一緒に楽しませて頂き、ほっこりする時間を過ごさせて頂きました。

このような瞬間の一つ一つを大切に今後も素敵な時間が過ぎて頂けるよう、職員一同頑張っていきたいと思えます。



のまのまホーム



冬の寒さも本格的になってきました。今回は女性ホームでの休日の過ごし方をご紹介します。

ここにこホームの近くには、大きな行田公園や小さな公園が数カ所あり、天気の良い日に散歩に出掛けています。まだまだ新型コロナウイルスは落ち着きませんが、周囲の方との距離に配慮しながら心の換気も兼ね、少しずつ外出を増やしています。コロナ禍ではありますが、少しでも利用者みなさまの生活がより良いものになるようにホーム職員一同、休日の日中支援に努めて参ります。





さざんかキッズ

秋から冬にかけては楽しくて子ども達がワクワクドキドキする行事や活動がたくさんあります😊11月は毎年恒例(になりつつある)トトロの森に変身🍁土管の中の枯れ葉を踏んで音や感触を楽しんだり、隠れている真っ黒くろすけを必死に探していました♡



12月はクリスマス会🎄子ども達はたくさん保護者の前で緊張しながらも練習してきたことを発揮していました！頑張った皆様にはサンタさんとトナカイからプレゼント🎁サンタさんにびっくりしている子もいましたがプレゼントをもらって喜んでいました。そしてにじ組はみんなで力を合わせて大きなクリスマスケーキを作りました☆来年もサンタさんはさざんかキッズに来てくれるかな？



とらのこきッズ



12月に行事としては中止となりましたが、クラスごとにクリスマス会を行いました。サンタさんがプレゼントを持ってとのこキッズのお子さんに会いに来てくれました!!
初めてサンタクローズを見て、少し不安な顔をしているお子さんや、去年は涙を流していたお子さんが笑顔でプレゼントを受け取っていたりと、色々な姿や表情が見られました😊
最後には、一緒にダンスを踊ったり、ハイタッチをして楽しい時間を過ごす事が出来ました🎅

